令和２年度　滋賀県立高等学校入学者選抜の概要

○　令和２年度滋賀県立高等学校入学者選抜において、推薦選抜（スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む）実施校は、全日制課程の３２校３４学科、定時制課程の１校１学科、特色選抜（スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む）実施校は、全日制課程の１４校１７学科であった。

推薦選抜、特色選抜合わせて６，１８９人（スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む）が出願し、３，１９１人が入学許可予定者となった。

○　一般選抜は、学力検査の受検倍率が１．０７倍であった。また、出願変更率は６．６％であった。

＜推薦選抜【スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む】＞

１　出願状況

募集枠　　２，２３５人

出願者数　　２，３４２人　　出願倍率　　１．０５倍（１．０９倍）

（　）は前年度であり、以下同様。

２　受検状況および入学許可予定者

受検者数　　２，３４２人

入学許可予定者数　２，０６１人　　合格率　　８８．０％（８５．４％）

＜特色選抜【スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む】＞

１　出願状況

募集枠　　１，１３４人

出願者数　　３，８４７人　　出願倍率　　３．３９倍（３．３３倍）

２　受検状況および入学許可予定者

受検者数　　３，８４５人

入学許可予定者数　１，１３０人　　合格率　　２９．４％（３０．０％）

＜スポーツ・文化芸術推薦選抜【推薦選抜・特色選抜の内数】＞

１　出願状況

募集枠　　１７８人

出願者数　　１２７人　　出願倍率　　０．７１倍（０．８０倍）

２　受検状況および入学許可予定者

受検者数　　１２７人

入学許可予定者数　１１９人　　合格率　　９３．７％（８７．１％）

＜一般選抜・学力検査＞

１　出願状況

出願者数　　７，１３８人（７，３９９人）

確定出願者数　　７，１０１人（７，３２８人）

確定出願倍率　　全日制　１．０９倍（１．０９倍）　　定時制　０．６４倍（０．６６倍）

全・定合わせて１．０７倍（１．０８倍）

２　出願変更状況

出願変更者数　　４７１人　このうち　３７　人は出願辞退者

出願変更率　　６．６％（６．３％）

（１）学科別出願変更率では音楽学科が１００％と最も高かった。（前年度は音楽学科の８３．３％）

（２）学校出願を除く普通科の出願変更者数　２８１人　出願変更率　６．６％（６．７％）

３　受検状況

受検者数　　７，０９０人　　受検倍率　　１．０７倍（１．０８倍）

全日制　６，９１９人　１．０８倍（１．０９倍）　定時制　１７１人　０．６３倍（０．６５倍）

４　入学許可予定者

（１）学力検査による入学許可予定者数　６，２１６人　　合格率８７．７％（８９．５％）

（２）入学許可予定者数が募集定員に満たなかった学校および学科　２６校３０学科（２１校２７学科）

＜二次選抜＞

１　二次選抜募集の学校・学科および募集定員

全日制　２１校２４学科３３２人　定時制　５校６学科１０１人　全・定合わせて　２６校３０学科４３３人

２　出願状況　　出願者数　１０９人　出願倍率　０．２５倍（０．４７倍）

３　受検状況　　受検者数　１０７人　受検倍率　０．２５倍（０．４４倍）

４　入学許可予定者　入学許可予定者数　９９人　合格率　９２．５％（７７．０％）

＜入学許可予定者総数および実入学者数＞

１　入学許可予定者総数　９，５０６人

２　実入学者数　　９，５０３人

３　定員充足率　　９６．６％（９８．３％）

令和２年度

滋賀県立高等学校入学者選抜結果のまとめ

（全日制・定時制・通信制）

滋　賀　県　教　育　委　員　会

令和２年度　滋賀県立高等学校入学者選抜結果まとめ

目　　次

Ⅰ　全日制の課程および定時制の課程

１　募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について　・・・　１

（１）推薦選抜、特色選抜の結果　・・・　１

（２）スポーツ・文化芸術推薦選抜の結果　・・・　２

（３）一般選抜の結果　・・・　２

（４）入学者選抜の結果　・・・　３

２　学科別の受験者数、入学許可予定者数等について　・・・　４

３　一般選抜における出願変更者数について　・・・　５

４　一般選抜における面接・作文・実技検査について　・・・　５

Ⅱ　単位制　転・編入学、通信制の課程　・・・　６

Ⅲ　一般選抜学力検査

１　出題の方針等　・・・　８

２　配点等　・・・　８

３　検査成績　・・・　８

【各教科の分析】

国　　語　・・・　９

数　　学　・・・　１１

社　　会　・・・　１３

理　　科　・・・　１５

英　　語　・・・　１７

Ⅰ　全日制の課程および定時制の課程

１　募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について

この冊子は、令和２年度県立高等学校入学者選抜の結果についてまとめたものである。
募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について、中高一貫教育に係る人数は除いている。

（１）推薦選抜、特色選抜の結果

表１は推薦選抜、特色選抜の出願者数（スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む）、入学許可予定者数等を示したものである。

推薦選抜実施校は、全日制課程の３２校３４科（普通科１６、専門学科１１、総合学科７）、定時制課程の１校１科（普通科１）であった。特色選抜実施校は、１４校１７科（普通科１４、専門学科３）であった。推薦選抜、特色選抜は、いずれも２月５日に実施した。

推薦選抜出願者の中学校別内訳は、県内の中学校・義務教育学校・中等教育学校１０７校中１００校（昨年度１０７校中９９校）、特別支援学校中学部１３校中２校（昨年度１３校中２校）、県外の中学校は２６校（昨年度２７校）であった。全日制の出願者数は、普通科で８２８人（昨年度８６３人）、農業学科で２２５人（昨年度２２２人）、工業学科で３２９人（昨年度３２８人）、商業学科で３２３人（昨年度３５６人）、家庭学科で８６人（昨年度９０人）、体育学科で４２人（昨年度４２人）、美術学科で２４人（昨年度３６人）、総合学科で４７５人（昨年度４９６人）であった。定時制は普通科の１０人（昨年度１３人）となった。この結果、出願者数合計は、２，３４２人（昨年度２，４４６人）となり、出願倍率（募集枠に対する出願者の割合）は、推薦を実施した全日制の普通科では１．０１倍（昨年度１．０５倍）、専門学科で１．１２倍（昨年度１．１７倍）、総合学科では０．９７倍（昨年度１．０１倍）、定時制の普通科は０．８３倍（昨年度１．３０倍）となり、実施学科全体では１．０５倍（昨年度１．０９倍）であった。この結果、２，０６１人が入学許可予定者となり、合格率は８８．０％（昨年度８５．４％）であった。

一方、特色選抜出願者の中学校別内訳は県内の中学校・義務教育学校・中等教育学校１０７校中１０３校（昨年度１０７校中１０２校）、県外の中学校は１６校（昨年度１５校）であった。出願者数は、普通科で３，７４５人（昨年度３，８６１人）、理数学科で８６人（昨年度９３人）、音楽学科で１６人（昨年度１７人）であった。この結果、出願者数合計は３，８４７人（昨年度３，９７１人）となり、出願倍率は、普通科では３．４９倍（昨年度３．４１倍）、専門学科では１．７０倍（昨年度１．８３倍）となり、実施学科全体では３．３９倍（昨年度３．３３倍）であった。この結果、１，１３０人が入学許可予定者となり、合格率は２９．４％（昨年度３０．０％）であった。

結果、推薦選抜、特色選抜合わせて３，１９１人が入学許可予定者となり、合格率は５１．６％（昨年度５１．１％）であった。

表１　推薦選抜、特色選抜出願者数・入学許可予定者数等（スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む）

学科＼項目		募集定員 A	募集枠 %	募集枠 人数A'	出願者数 B	受検者数 B'	出願倍率 B/A'	入学許可予定者数C	合格率 C/B'(%)
推薦選抜	普通科	2,800	25～30	830	838	838	1.01	767	91.5
推薦選抜	専門学科 農業	400	50	200	225	225	1.13	190	84.4
推薦選抜	専門学科 工業	720	50	360	329	329	0.91	307	93.3
推薦選抜	専門学科 商業	520	50	260	323	323	1.24	259	80.2
推薦選抜	専門学科 家庭	80	40	32	86	86	2.69	32	37.2
推薦選抜	専門学科 体育	40	85	34	42	42	1.24	34	81.0
推薦選抜	専門学科 美術	40	75	30	24	24	0.80	24	100.0
推薦選抜	専門学科 小計	1,800		916	1,029	1,029	1.12	846	82.2
推薦選抜	総合学科	1,240	30～40※	489	475	475	0.97	448	94.3
推薦選抜	合計	5,840		2,235	2,342	2,342	1.05	2,061	88.0
特色選抜	普通科	3,640	25～30	1,074	3,745	3,743	3.49	1,074	28.7
特色選抜	専門 理数	80	50	40	86	86	2.15	40	46.5
特色選抜	専門 音楽	40	50	20	16	16	0.80	16	100.0
特色選抜	専門 小計	120		60	102	102	1.70	56	54.9
特色選抜	合計	3,760		1,134	3,847	3,845	3.39	1,130	29.4
総合計		9,600		3,369	6,189	6,187	1.84	3,191	51.6

※信楽高等学校総合学科の推薦選抜募集枠には、40％の他に全国募集枠を含む（上限５名）

（２）スポーツ・文化芸術推薦選抜の結果

推薦選抜実施校の中でスポーツ・文化芸術推薦選抜を実施した県立高等学校は、全日制課程の１６校（普通科６校、専門学科７校、総合学科４校　のべ１７校）であった。

特色選抜実施校の中でスポーツ・文化芸術推薦選抜を実施した県立高等学校は、全日制課程の４校（普通科４校）であった。

受検者数１２７人に対して、入学許可予定者数は１１９人となり、受検者数に対する合格率は、９３．７％（昨年度８７．１％）となった。

（３）一般選抜の結果

３月１０日に実施した一般選抜は、学力検査定員６，６４９人に対し、確定出願者数は７，１０１人であり、確定出願倍率は１．０７倍であった。また、受検者数は、７，０９０人であり、受検倍率は１．０７倍であった。この結果、６，２１６人が入学許可予定者となり、合格率は８７．７％であった。

３月２３日に実施した二次選抜は、二次選抜定員４３３人に対し、受検者数は１０７人であった。この結果、９９人が入学許可予定者となり、合格率は９２．５％であった。

表２　一般選抜出願者数・入学許可予定者数等

項目＼年度		令和２年度	平成３１年度
学力検査	学力検査定員　A	６，６４９	６，８０２
	出願者数	７，１３８	７，３９９
	確定出願者数 （倍率）	７，１０１ (1.07)	７，３２８ (1.08)
	受検者数　B （倍率）	７，０９０ (1.07)	７，３１７ (1.08)
	不合格者数	８７４	７７０
	入学許可予定者数　C	６，２１６	６，５４７
	合格率　C／B(%)	８７．７	８９．５
二次選抜	二次選抜定員　A－C	４３３	２５５
	出願者数	１０９	１２１
	受検者数　D （倍率）	１０７ (0.25)	１１３ (0.44)
	不合格者数	８	２６
	入学許可予定者数　E	９９	８７
	合格率　E／D(%)	９２．５	７７．０
入学許可予定者数合計　C＋E		６，３１５	６，６３４

（４）入学者選抜の結果

３月１７日に発表した県立高等学校全日制および定時制の課程の入学許可予定者数は９，４０７人であり、その内、推薦選抜による者は１，９５６人、特色選抜による者は１，１１６人、スポーツ・文化芸術推薦選抜による者は１１９人、一般選抜による入学許可予定者数は６，２１６人であった。また、３月２５日に発表した二次選抜による入学許可予定者数は９９人であり、県立高等学校全日制および定時制の入学許可予定者を合わせて９，５０６人となった。そのうち、全日制では募集定員９，５６０人に対して入学許可予定者数９，３２６人となった。

４月８日における県立高等学校全日制および定時制の課程の実入学者数は９，５０３人で、募集定員の９６．６％（昨年度９８．３％）となった。

表３　入学許可予定者数等

項目＼年度		令和２年度 全日制	令和２年度 定時制	令和２年度 合　計	平成３１年度
※県内中学校卒業予定者数				１３，９４２	１４，１７１
募集定員　　A		９，５６０	２８０	９，８４０	１０，０８０
推薦選抜入学許可予定者数		１，９４６	１０	１，９５６	１，９８２
特色選抜入学許可予定者数		１，１１６	－	１，１１６	１，１８１
スポーツ・文化芸術推薦選抜入学許可予定者数		１１９	－	１１９	１１５
一般選抜入学許可予定者数		６，０４７	１６９	６，２１６	６，５４７
二次選抜入学許可予定者数		９８	１	９９	８７
総計	入学許可予定者総数	９，３２６	１８０	９，５０６	９，９１２
	実入学者数　B			９，５０３	９，９０９
	定員充足率　B／A(%)			９６．６	９８．３

※県内中学校卒業者予定者数は、令和２年３月中学校、義務教育学校および特別支援学校中学部卒業予定者の第２次進路志望調査による。

２　学科別の受検者数、入学許可予定者数等について

県立高等学校全日制および定時制の課程を合わせて学科別にみると**表４**のようになり、実入学者数が募集定員を下回ったのは、普通科、農業学科、工業学科、音楽学科、美術学科、総合学科の６学科（昨年度５学科）であった。

表４　学科別の受検者・入学許可予定者数等（スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む）

項目			学科	普通	農業	工業	商業	家庭	理数	体育	音楽	美術	総合
募集定員　A			9,840	6,560	400	800	520	80	80	40	40	40	1,280
推薦選抜	募集枠（人数）		2,235	830	200	360	260	32	－	34	－	30	489
	受検者数　B		2,342	838	225	329	323	86	－	42	－	24	475
	入学許可予定者数 C		2,061	767	190	307	259	32	－	34	－	24	448
	合格率　C/B(%)		88.0	91.5	84.4	93.3	80.2	37.2	－	81.0	－	100	94.3
特色選抜	募集枠（人数）		1,134	1,074	－	－	－	－	40	－	20	－	－
	受検者数　D		3,845	3,743	－	－	－	－	86	－	16	－	－
	入学許可予定者数 E		1,130	1,074	－	－	－	－	40	－	16	－	－
	合格率　E/D(%)		29.4	28.7	－	－	－	－	46.5	－	100	－	－
一般選抜	学力検査	学力検査定員 A-(C+E)	6,649	4,719	210	493	261	48	40	6	24	16	832
		確定出願者数	7,101	*4,271	224	419	263	62	**	**	0	**	873
		受検者数　F	7,090	*4,265	224	418	263	62	**	**	－	**	872
		入学許可予定者数 G	6,216	4,446	208	416	255	48	40	6	－	7	790
		合格率　G/F(%)	87.7	***	92.9	99.5	97.0	77.4	***	***	－	***	90.6
		二次選抜定員 A-(C+E)-G	433	273	2	77	6	－	－	－	24	9	42
	二次選抜	出願者数	109	88	1	9	9	－	－	－	0	0	2
		受検者数　H	107	86	1	9	9	－	－	－	－	－	2
		入学許可予定者数 I	99	81	1	9	6	－	－	－	－	－	2
		合格率　I/H(%)	92.5	94.2	100	100	66.7	－	－	－	－	－	100
総計		入学許可予定者	9,506	6,368	399	732	520	80	80	40	16	31	1240
		実入学者数 J	9,503	6,366	398	732	520	80	80	40	16	31	1240
		過不足　J-A	-337	-194	-2	-68	0	0	0	0	-24	-9	-40
		定員充足率(%)	96.6	97.0	99.5	91.5	100	100	100	100	40.0	77.5	96.9
前年度定員充足率(%)			98.3	99.2	100	95.8	100	100	100	100	50.0	97.5	95.0

*　学校出願の数を除いた数。学校出願の数は、普通科と専門学科を合わせて別表に示す。

**　学校出願のため、普通科と専門学科を合わせて別表に示す。

***　学校出願のため、学科ごとの合格率は算出できない。

別表　学校出願

項目		学科	普通	理数	普通	体育	普通	美術
一般選抜	学力検査	学力検査定員　A-(C+E)	392	40	224	6	117	16
		確定出願者数	563		326		100	
		受検者数　D	563		323		100	
		入学許可予定者数　E	387	40	224	6	93	7

３　一般選抜における出願変更者数について

表５は、学科別の出願者数および出願変更者数等を示したものである。

出願者数７，１３８人に対し、出願変更者数は４７１人（昨年度４６７人）、出願変更率は６．６％（昨年度６．３％）となり、確定出願者数は７，１０１人であった。

各学科別の出願変更率は、音楽学科の１００％が最も高く（昨年度の最高は音楽学科が８３．３％）、次に、農業学科の１２．６％であった。

表５　学科別の出願変更者数　　（昨年度）

学科＼項目		学力検査定員	出願者数 A	出願変更者数 B（第１志望を取り下げた数）	出願変更率 B/A(%)	確定出願者数 C	出願変更者数	出願変更率(%)
＊普通		3,986	4,272	281	6.6	4,271	304	6.7
農業		210	239	30	12.6	224	8	4.1
工業		493	411	20	4.9	419	30	6.6
商業		261	248	9	3.6	263	15	5.0
家庭		48	61	3	4.9	62	5	7.6
音楽		24	1	1	100	0	5	83.3
総合		832	911	69	7.6	873	45	5.4
学校出願	普通・理数	432	563	23	4.1	563	28	4.9
	普通・体育	230	345	33	9.6	326	19	6.2
	普通・美術	133	87	2	2.3	100	8	6.7
合計		6,649	7,138	471	6.6	7,101	467	6.3

＊普通科は学校出願を除く

４　一般選抜における面接・作文・実技検査について

点数化する面接を実施した学校は、全日制の課程では湖南農業高等学校、甲南高等学校、八日市南高等学校、愛知高等学校の４校８科、定時制の課程では、大津清陵高等学校（夜間）の１校１科であった。

実技検査を実施した学校は、石山高等学校（音楽科）、草津東高等学校（体育科）、栗東高等学校（美術科）の３校３科であった。

なお、作文の実施校はなかった。

Ⅱ　単位制　転・編入学、通信制の課程

募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について

単位制の課程の昼間部（滋賀県立大津清陵高等学校に限る。）で実施した転・編入学については、定員４０人に対し１６人（昨年８人）が入学許可予定者となり、０．４０倍（昨年度０．２０倍）の倍率となった。二次選抜では、１人（昨年０人）が入学許可予定者となり、合計１７人（昨年度８人）が入学許可予定者となった。

また、通信制の課程については、定員３２０人のところ、一次選抜では１７３人の出願者（昨年度１５６人）に対して、１７３人（昨年度１５６人）が入学許可予定者となった。また、二次選抜では、２２人（昨年度３８人）が入学許可予定者となり、合計１９５人（昨年度１９４人）が入学許可予定者となった。

表６　募集定員，志願者数，入学許可予定者数等

年度＼項目			一次選抜				辞退者	二次選抜		合計	
			募集定員 A	出願者数 B	入学許可予定者数 C	率 C/A	D	出願者数	入学許可予定者数 E	入学許可予定者数 F=C-D+E	募集定員との差 F-A
令和２年度	単位制	転編入	４０	１６	１６	０．４０	０	１	１	１７	－２３
		通信制	３２０	１７３	１７３	０．５４	０	２２	２２	１９５	－１２５
平成31年度	単位制	転編入	４０	８	８	０．２０	０	０	－	８	－３２
		通信制	３２０	１５６	１５６	０．４９	０	３８	３８	１９４	－１２６

Ⅲ　一般選抜学力検査

１　出題の方針等

問題の作成に当たっては、中学校学習指導要領に示された内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえ、単なる知識量をみるのではなく、思考力・判断力・表現力を問う設問や記述式の解答を多くするなどの工夫を凝らした。

また各教科の学力検査問題は、平成１５年度入学者選抜から全日制と定時制の課程が同一日程での実施となっており、本年度も同一問題で実施した。

国語では、様々な種類の文章などを素材にして、論理的に思考する力、豊かに想像する力、言語感覚などをみることをねらいとした。

数学では、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解をみるとともに、見通しをもって数学的に表現し処理する力や、事象を数理的に考察し表現する力をみることをねらいとした。

社会では、地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図やグラフ、図表などの各種の資料を活用して、多面的・多角的に考察し判断する力や、適切に表現する力をみることをねらいとした。

理科では、身の回りの事物・現象を調べる観察、実験を通して、自然の仕組みやはたらきについて知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力をみることをねらいとした。

英語では、初歩的な英語を聞くことや読むことを通して、話し手や書き手の意向を正確に理解する力、自分の考えを適切に表現する力などのコミュニケーション能力をみることをねらいとした。

２　配点等

配点は、各検査教科１００点満点を標準とし、５教科で５００点満点とした。また、記述式の問題等では、学校の状況に応じて部分点を与えるなど、採点に幅を持たせた。

学力検査実施教科の配点に比重をかける傾斜配点は、膳所高等学校理数科で数学と理科の配点を１２０点満点（５教科合計で５４０点満点）で実施した。

３　検査成績

総合得点については、傾斜配点や面接を実施した学校があり、学校ごとに満点値が異なるため、全体としてのまとめは行わなかった。

検査教科ごとの受検者の平均点は国語４７．７点、数学４２．１点、社会４４．９点、理科３９．９点、英語５０．０点であった。

令和２年度　国　　語

１　出題方針

中学校学習指導要領（国語）に示された内容に基づき、国語を適切に表現し正確に理解する基礎的な力をみるようにした。

また、様々な種類の文章などを素材にして、論理的に思考する力、豊かに想像する力、言語感覚などをみるようにした。

２　問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「問題文のテーマが今日的な課題を踏まえたものであり、生徒も関心を持って読み進めることのできるものであった」、「読む量、書く量ともに多かったが、論理的思考力が試される問いであった」、「様々な資料や情報から必要事項を見つけ出し、自分の考えや設問に対する答えを導き出す適時的な問題であった」、「漢字については例年より難化したが、基礎的学力を問うのに適したものであった」という意見が主なものであった。

そのほかに「記述解答を求める問題が多くなると採点の公平性という観点から採点に時間がかかる」、「小説や詩歌など、文学的な作品からの出題があってもよいのではないか」などの意見があった。

３　解答の分析

漢字や語句に関する基礎的・基本的な知識・技能の定着をみる問題は、全体の中での正答率は高かったが、漢字については例年より正答率が低かった。日常的に用いる機会の少ない語については正答に至っておらず、漢字の知識はもとより、語彙力の育成も求められる。また、文脈の中における語句の意味や文章の要旨を的確にとらえ、適切にまとめる力をみる問いや、自分が伝えたいことについて、資料を適切に引用し、根拠を明確にして書く力をみる問いについても正答率が低かった。誤答例を見ると、問われていることと無関係なことをまとめたり、条件を踏まえていなかったりするものも少なからずあり、問われていることを的確に読み取る力の不足もうかがえる。文章を読み解いていく上で必要な語彙力を身に付けること、それぞれの語句の文脈の中における、具体的、個別的な意味をとらえる力を養うこと、文章の構成や展開、表現の仕方について評価しながら読み、目的に応じて必要な情報を的確に読み取る力を育むことが求められる。また、読み取った内容や自分の考えを適切に表現する力を身に付けるために、語感を磨き、語彙を豊かにする言語活動や、論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書く機会を積極的に設け、交流をとおしてさらに自分の考えを深めるなどの学習活動の充実がより一層求められる。

一は、プラスチックの歴史や性質、現在の問題について書かれた文章を素材にして、複数の文章などを比較し、必要な情報を読み取る力、文脈の中における語句の意味や文章の要旨を的確にとらえ、適切にまとめる力をみる問題であった。選択肢から選ぶ問いについては正答率が高かったが、複数の文章等から目的に応じて必要な情報を読み取り、読み取ったことを適切にまとめる記述解答問題については正答率が低かった。文章に書かれていることと自分を結び付けて考える態度を養いながら、目的に応じて説明したり、複数の文章等を比較して読み、物事を対比的にとらえたりする学習活動を充実させ、文章の要旨を適切な言葉で表現する力の育成が求められる。

二は、敬語の使い方について考察した文章や資料を素材にして、敬語を社会生活の中で適切に使う力、目的に応じて要旨をとらえる力、自分が伝えたいことについて、資料を適切に引用し、根拠を明確にして書く力をみる問題であった。敬語を社会の中で適切に使う力については、想定していたよりも正答率が低かった。また、提示された文章を書きなおす問題、学習のまとめとして根拠を明確にして自分の考えを述べる問題の正答率も低かった。文章全体の中で各段落の果たす役割を理解する力を養うことや、取材、構成、記述、推敲、交流という一連の学習活動を充実させ、説得力のある文章を書く力の育成が求められる。

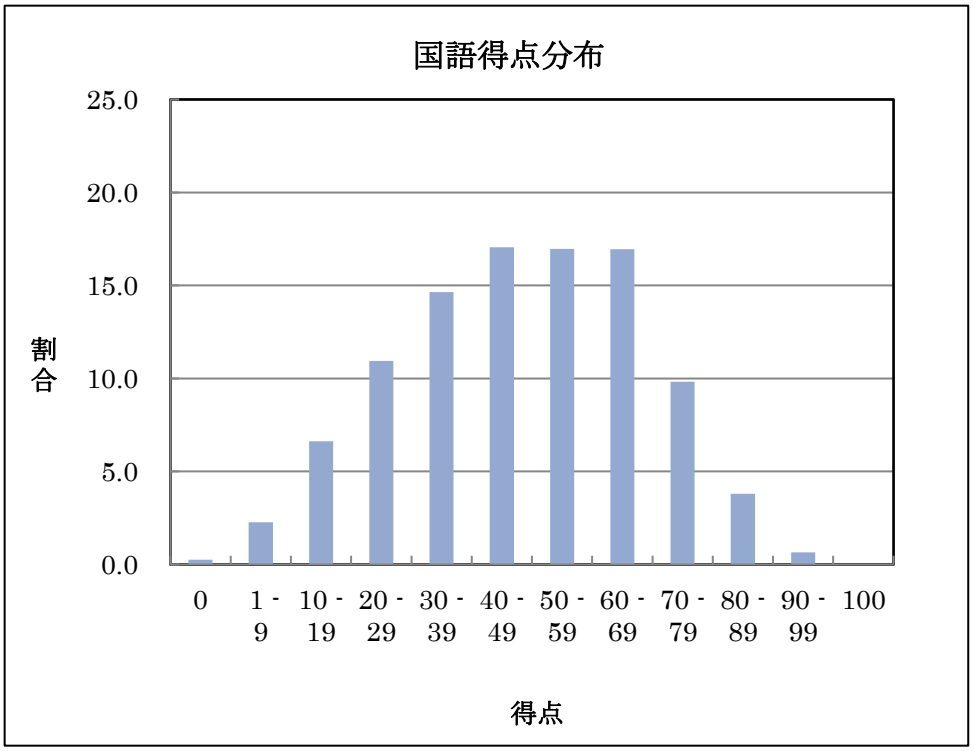
三は、基礎的・基本的な知識・技能の定着をみる問題であり、全体の中では正答率は高かったが、漢字については例年より正答率が低かった。故事成語の意味の説明についても、自分の言葉で説明することが曖昧で正答へ至っていないものが多かった。言葉の特徴や決まりに関する学習をする中で、自分の生活と結び付けて語彙を豊かにする言語活動を重視することが求められる。

国　　語

問題区分		正答率（%）
一	1	13.6
	2	72.8
	3	53.0
	4	62.0
	5	6.6
二	1	26.1
	2	47.5
	3	4.5
	4	12.0

問題区分			正答率（%）
三	1	①	81.9
		②	40.8
		③	66.1
		④	55.4
		⑤	55.9
	2	①	84.1
		②	58.7
		③	63.1
		④	87.7
		⑤	53.1
	3	①	58.0
		②	51.8
	4	①	66.2
		②成語	61.9
		②意味	28.2

年　度	平均点	標準偏差
令２(100 点満点)	４７．７	２０．０



令和２年度　数　　学

１　出題方針

中学校学習指導要領（数学）に定められた内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえ、数学的な見方や考え方をみるようにした。

また、数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解をみるとともに、見通しをもって数学的に表現し処理する力や、事象を数理的に考察し表現する力をみるようにした。

２　問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般としては、「中学校での学習内容を踏まえ、基礎・基本となる事項を問う問題から、数学的な知識や見方を様々な状況に応用し、複合的に考える力を問う問題まで幅広く用意されていた問題だった。」「日常生活の中にある事象を数学的に考える問題が多かった。」「問題解決の糸口となるような事柄を与え、筋道を立てて考えさせるという試みが見られた反面、計算問題が少なくなってきている。」などといった意見があった。

各設問については、「1は数学的に考察・処理する基礎的な能力を問う問題であった。」「2は、与えられた情報を精査したり、グラフから必要な情報を読み取ったりする力を問う問題であった。」「3は、日常の生活を題材にして、数学的思考力をはかる問題であった。」「4は、授業で学習した基本的な作図の内容と思考力を問う内容が組み合わさった出題であった。」などの意見があった。

３　解答の分析

全体として、数や式の計算、方程式等の基礎的・基本的な事項や概念については、おおむね理解できているといえる。一方、複数の分野を融合させた問題や、解答にいたるまでに複数の段階を経なければならない問題、自分の言葉で表現し説明する問題で正答率が低くかった。題意を正確に読み取り、数量の関係や法則を考察し数学的な表現を用いて正確に説明していく力や、基本的な図形の性質を利用し複雑な図形の中に隠れた性質を見いだし数学的に処理する力が十分身についておらず、今後は、課題を解決する学習において、論理的に考察し、数学的な表現を用いて筋道立てて説明する活動を取り入れながら、習得した知識を活用し、思考力・判断力・表現力を育成することが望まれる。

1は、数と式の計算、２次方程式、資料の活用に関する問題について、正答率が比較的高く、よく理解できていた。与えられた条件を正確に理解し、複数の段階を経ないと正答できない関数や確率の問題では、正答率が低かった。与えられた情報を正確に読み取る力や数学的に見通しをもって処理する力の育成が望まれる。

2は、身近な事物についてのさまざまな情報から必要な情報を取り出しグラフと関連付け、問題を処理する能力を問う問題であった。与えられた情報をそのまま活用できる問題の正答率は高かったが、与えられた情報を数学的に考察し活用する問題や多くの情報から必要な情報だけを取り出し、数学的な表現を用いて説明していく問題の正答率が低かった。与えられた情報を正確に読み取って適切な手法を用いて分析し、数学的に表現・処理する力の育成が望まれる。

3は、日常の生活を題材にし、与えられた図の中に隠れた図形の性質を見つけ出し、数学的に考察し表現・処理する力を問う問題であった。長方形の辺上を移動する点Ｐの位置が固定されている問題に比べ、点Ｐの位置が定まっていない問題の正答率が低かった。図形に関する基礎的・基本的な知識を身につけているだけでなく、その中から適切な知識を活用して粘り強く考察し、数学的に表現・処理する力の育成が望まれる。

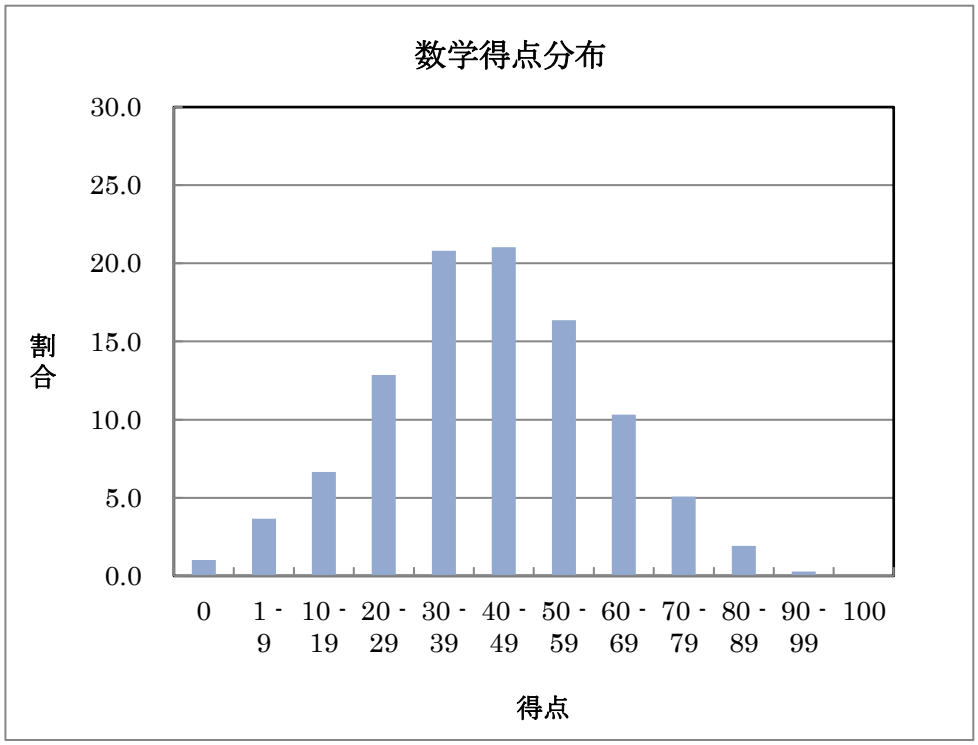
4は、円、正方形、三角形の面積をそれぞれ三等分する方法について図形や作図に関する基礎的・基本的な知識を活用して数学的に考察し、表現・処理する力を問う問題であった。三角形の高さと内接円の半径の関係や三角形の面積と底辺の長さの関係に着目し作図する問題の正答率が特に低かった。作図や図形に関する知識をただ活用するのではなく、題意を正確に読み取り、数学的に考察し必要に応じて活用する力の育成が望まれる。

数　　学

問　題　区　分		正　答　率（%）
1	（1）	67.6
	（2）	80.5
	（3）	81.9
	（4）	69.6
	（5）	78.7
	（6）	64.3
	（7）	42.5
	（8）	76.6
	（9）	16.6

問　題　区　分		正　答　率（%）
2	（1）	68.4
	（2）	34.1
	（3）	23.6
	（4）	15.7
3	（1）	32.8
	（2）	17.3
	（3）	0.7
4	（1）	5.1
	（2）	17.4
	（3）	0.2

年　度	平均点	標準偏差
令２（100 点満点）	４２．１	１８．６



令和２年度　社　　会

１　出題方針

中学校学習指導要領（社会）に示された内容に基づき、地理、歴史、公民の三分野について、基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得をみるようにした。

また、地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図やグラフ、図表などの各種の資料を活用して、多面的・多角的に考察し判断する力や、適切に表現する力をみるようにした。

２　問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「中学校で学んだことを幅広く問うており、資料から読み取った情報と学んだ知識を活用し、現代の課題を考える問題であった。」、「様々な資料を活用して、読み解く力を問う問題であった。」、「地理、歴史、公民分野を軸にしつつ、他分野と融合させる工夫がされつつ、資料やグラフ、地図を踏まえて考えさせる問いになっている。」などの意見があった。

設問については、「日本地理、世界地理のバランスが良く、多くの資料も出題意図が理解できる問いである。」、「時代の特色を総合的にとらえ、比較する中で社会や時代の変化を考察させる問いであった。」、「国際政治や国際経済の変化とそれらの現状に対する知識を問うとともに、国際社会の将来への展望まで問う工夫された問題になっていた。」などの意見があった。

３　解答の分析

全体として、地理、歴史、公民の三分野における基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得はおおむねできている。正答率が低い問題に共通するのは、資料から適切な情報を取り出して、多面的・多角的に考察し、適切に表現する力をみるものであり、これらの力が十分に身についていないと考えられる。何が問われているのかを正確に読み解き、図表やグラフから適切な情報を選択し、蓄積した知識から判断し、自らの言葉で表現する力の育成が必要である。社会科の学習においては、引き続き、基礎的・基本的な知識や技能を身につけたうえで、各種の資料を主体的に活用したり、対話的に意見を交流したり、自分の言葉で論述したりして、社会的事象を多面的・多角的に考察し、適切に表現する力など「読み解く力」を育成する指導が望まれる。

1は、身近な「茶」を題材に、日本の地域的特徴だけでなくグローバルな視点へと広げ、世界の地域的特色を歴史的背景や経済状況と関連付けて考察し、適切に表現する力をみる出題とした。気候や農業についての基本的な知識をみる問題の正答率は高く、中学校での学習の成果がうかがえる。一方で、地理的、社会的事象を適切な形で表現する問題の正答率が低く、知識や資料から適切な情報を取り出して、文章にまとめる力を育成する必要がある。

2は、写真などの資料をもとに、古代から現代に至る各時代の社会の様子を概観する素材となっている。基礎的・基本的な知識や技能をみるとともに、多面的・多角的に考察する力や、適切に表現する力をみる問題であった。資料や略地図から得た情報を、自分の持っている知識と組み合わせて、適切な文章で答える問題で正答率が低かった。知識の習得とともに考察力、表現力を総合的に育てていく必要がある。

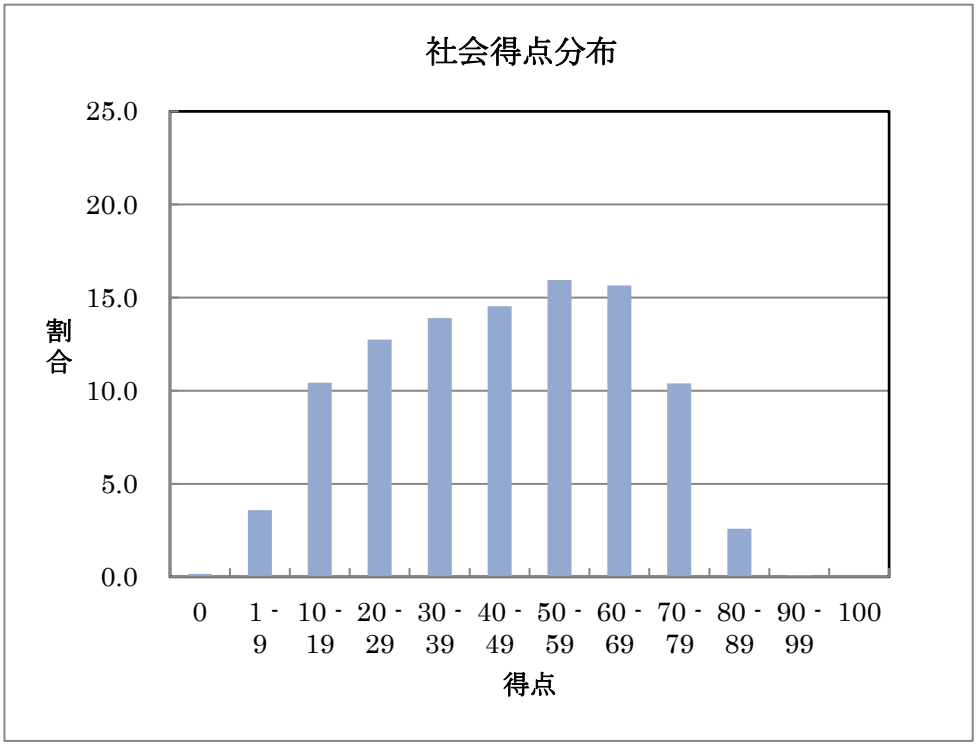
3は、グラフや表などの資料をもとに、国際連合や国会などの役割についての基本的な知識の理解を見るとともに、日本と国際社会の関係や世界規模の課題について、考察し判断する力や、適切に表現する力をみる問題であった。今後も日ごろから身の回りの生活と社会との関わりに関心をもち、多面的・多角的に考察し、適切に表現する力を育てていく必要がある。

社　　会

問題区分			正　答　率（%）
1	1		78.7
	2	(1)	50.1
		(2)	32.0
	3	(1)	75.1
		(2)	40.8
		(3)	13.5
	4		76.2
	5		5.5
2	1	(1)	58.1
		(2)	64.3
	2	(1)	36.5
		(2)	11.6

問題区分			正　答　率（%）
2	3	(1)	47.9
		(2)	6.8
		(3)	38.7
	4	(1)	21.2
		(2)	8.9
3	1		59.6
	2		40.3
	3		7.1
	4	(1)	67.9
		(2)	62.9
	5	(1)①②	33.1
		(1)記号	34.5
		(2)	69.7
		(3)	5.4

年　度	平均点	標準偏差
令２（100 点満点）	44.9	20.8



令和２年度　理　　科

１　出題方針

中学校学習指導要領（理科）により定められた内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえ、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な知識と技能をみるようにした。

また、身の回りの事物・現象を調べる観察、実験を通して、自然の仕組やはたらきについて、知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力をみるようにした。

２　問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「身の回りの事物・事象を、実験を行って探究する過程が題材となっている。」「データを読みとる力、観察結果を読みとる力など、探究する力が求められる問題であった。」「知識を答えるだけでなく、記述や図示するなど思考力や表現力をみる問題であった。」などの意見があった。

設問については、「地球の公転と自転、および日の出の時間の関係を問う興味深い問題であった。」「複数の実験の資料を検討しながら考察する問題であった。」「基本的な内容でありながら、モデルを図示させたり、定量的な内容に関連付けて記述させる問題であった。」などの意見があった。

３　解答の分析

物理、化学、生物、地学の各分野の基本的な事項を問う問題については、正答率が高く、基本的な知識は定着していると考えられるが、基本的な用語の定義について説明する問題の正答率が低かった。基本的な概念の理解を深め、表現する力を育成するには、身の回りの具体例を見出し、事物・現象について説明する取組などが必要である。また実験や観察の結果を分析し、その事物・現象について科学的に考察・説明することを求める問題で正答率が低かった。基本的な概念を定着させ、活用する態度を育成する必要がある。また複数の要因が関係する現象を説明する問題については、複数の資料を関連付けて考察することができておらず、正答率が低かった。事物・現象について論理的に、簡潔に表現できるようにするためには、身の回りの事物・現象に興味や疑問をもち、目的意識をもって主体的に観察や実験を行うことが大切である。また課題に対して適切な実験を計画し，得られたデータを適切に処理し分析・解釈する取組が重要となる。

1は、日の出や日の入りの時刻についての調べ学習を通して，恒星についての理解や資料を分析する力をみる問題であった。基本的な知識をみる問題については、正答率が高かった。一方、昼の長さを地軸の傾きや公転から考察する問題では、正答率が低かった。図を正しく理解し、表現する力の育成が望まれる。

2は、大根やかいわれ大根がもつはたらきを調べる実験を通して，食物の消化や生物相互の関係についての基礎的な理解、そして実験を計画する力や，仮説を検証し考察する力をみる問題であった。生物の分類に関する基本的な知識をみる問題については、正答率が高かった。一方、概念を説明する問題や、実験を計画する力や，仮説を検証し考察する力をみる問題については、正答率が低かった。自ら実験を計画し，仮説を検証する学習活動を増やすことが望まれる。

3は、イオンの生成についての基礎的な理解や、塩酸と水酸化ナトリウム水溶液との中和反応における量的な関係を見出し，実験結果をイオンのモデルと関連付けて考察し，表現する力をみる問題であった。イオンや中和など、知識の定着をみる問題については、正答率が高かった。一方、中和によるイオンの数の変化についてモデルを用いて図示する問題や、量的な関係については、正答率が低かった。中和反応をモデルと関連付けて、深く考察する態度の育成が望まれる。

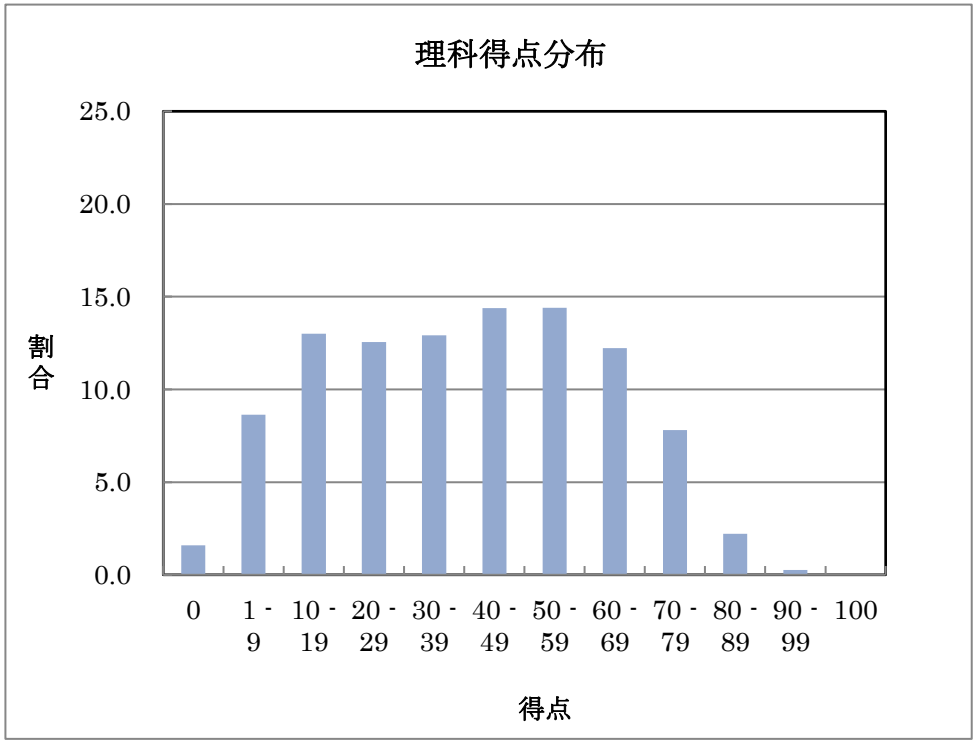
4は、身の回りの電気器具と，電熱線を用いた実験を通して，回路や，電気抵抗の大きさと電力量や熱量の関係から，直列および並列回路と電力との関係について考察する力をみる問題であった。電力量や熱量の関係について計算する基本的な問題については、正答率が高かった。一方、並列回路における各抵抗に加わる電圧の関係について説明する問題については、正答率が低かった。科学的な知識を覚えるだけでなく、原因と結果を深く考察する態度の育成が望まれる。

理　　科

問題区分			正答率（%）
1	1		76.6
	2	夏至	31.7
		冬至	30.5
	3		41.2
			24.2
	4		22.4
	5		7.5
2	1		33.9
	2		23.6
	3		68.4
	4		18.2
	5		14.6

問題区分			正答率（%）
3	1		33.5
	2		58.6
	3		49.9
	4		31.9
	5		6.4
4	1		35.9
	2		56.3
	3		47.2
	4	℃	50.4
		J	37.3
	5		13.3

年　度	平均点	標準偏差
令２（100点満点）	39.9	22.4



令和２年度　英　　語

１　出題方針

中学校学習指導要領（外国語）に示された内容に基づき、英語を理解し、英語で表現する基礎的な力をみるようにした。また、初歩的な英語を聞くことや読むことを通して、話し手や書き手の意向を正確に理解する力、自分の考えを適切に表現する力などのコミュニケーション能力をみるようにした。

２　問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「中学生にとって身近な場面を設定し、イラストやグラフなどを活用しながら、会話や英文を理解する力と知っている表現で自分の考えを表現する力を見る問題であった。」「１つのテーマについて多角的な視点で考えさせる点において、生徒の思考力を問う問題であった。」などの意見があった。

設問については、「英語を聞き取る力、必要な情報を読み取る力、自分の考えを表現する力を問う問題で、バランスがよかった。」「日常生活において必要とされる英語力を問う問題で、コミュニケーション能力をみる意図が明確であった。」などの意見があった。

リスニングについては、「身近な英語使用場面を想定した問題であった。」「基本的なリスニング能力を測るための適切な場面設定と難易度設定であった。」「問題数がやや多かったと思われる。」などの意見があった。

３　解答の分析

全体として、実際の言語の使用場面を想定した会話を聞いて、話し手の伝えたいことを理解する力や、身近な話題についての英文を読んで大まかな内容や必要な情報をつかむ力、基本的な語彙を用いて簡単な内容を表現する力はある程度身に付いている。正答率が低いのは、場面や状況に応じて考えや意見を適切に表現する問題であった。実際のコミュニケーションを目的とした英語の運用能力が十分に身に付いていないと考えられる。より豊かな表現を可能にし、コミュニケーションをより充実できるようにするため、語彙や文構造の理解についてより一層の定着を図るとともに、それらを言語活動と効果的に関連付け、実際に活用できるように指導することが重要である。日ごろから、読んだり聞いたりした英文の内容を理解するだけでなく、自分なりの感想や意見などを表現するコミュニケーション活動をより一層充実させることが望まれる。

1の聞き取り問題では、身近な場面での会話を聞いて情報を聞き取る問題の正答率が高く、中学校の授業で英語を「聞く・話す」活動に積極的に取り組ませている成果が表れている。しかし、まとまりのある英文を聞いて、自分の立場で考えを表現する問題では正答率が低かった。まとまりのある英語を聞き、その内容について話し合ったりするような活動を一層充実させることが望まれる。

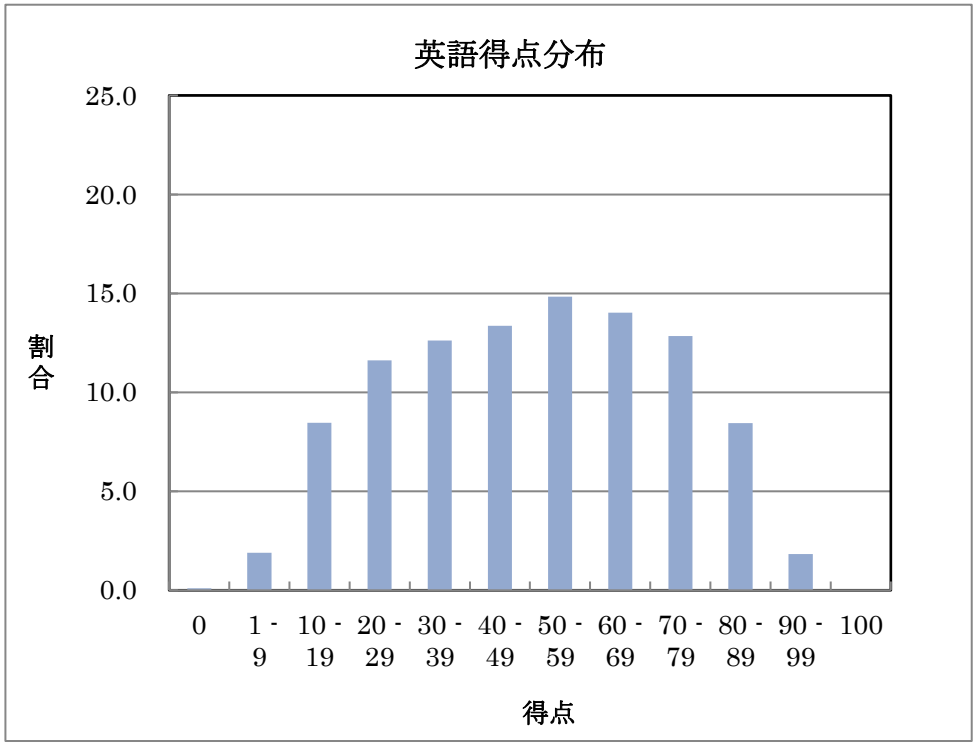
2は、本を紹介するイベントの案内や読書量に関する高校生の発表を素材にして、情報を正確に読み取ったり、本文の流れに合わせて適切に表現したりする力などをみる問題であった。大まかな情報を読み取る問題や会話の流れにあう適切な語句を選ぶ問題では、比較的高い正答率であったが、会話の流れに即して基本的な語彙を用いた表現を選ぶ問題では正答率が低かった。日ごろから、グラフなどの資料から情報を読み取り、自分の感想などを述べ合い、適切に表現する活動をより計画的に行うことが望まれる。

3は、英語を学ぶ意義などについて、国際交流の経験をもとにした高校生のスピーチを素材にして、発表者の伝えたい内容を読み取る力、理解した内容を適切に表現する力などをみる問題であった。発表の内容を大まかな理解を問う問題では正答率が高かったが、発表の流れを理解し適切な語句を抜き出す問題や、内容を理解しそれを表現する問題では正答率が低かった。まとまりのある英文を読んだり聞いたりして、内容について意見を述べ合ったり、感想などを示したりする活動を一層充実させることが望まれる。

4は、英語の先生が授業で問いかけた来日する中学生との交流活動について、自分の考えやその理由を表現する力を見る問題であった。正答率は低く、日ごろから、自分の考えを学習した表現を用いて述べ合ったりする活動やまとまりのある英文を書く活動を一層充実させることが望まれる。

英　　語

問題区分			正答率（%）
1	その１	1	76.3
		2	86.8
		3	59.0
		4	78.1
	その２		61.0
	その３	1	72.2
		2	84.9
		3	74.4
		4	30.7
2	1		86.5
	2	(1)	67.2
		(2) ②	20.1
		(2) ③	15.9
	3	(1)	10.9
		(2)	44.0
		(3)	41.5

問題区分			正答率（%）
3	1	（１）	57.4
		（２）	27.3
		（３）	21.9
	2		30.6
	3		31.2
	4		14.9
	5		11.4
	6	ア	34.2
		ウ	60.1
	7		9.8
4			3.7

年　度	平均点	標準偏差
令２（100 点満点）	50.0	22.4